

1 研究の概要

(1) 研究テーマ

児童が互いに気付きの質を高め合う小学校生活科の学習指導の在り方
—具体的な活動や体験を行う場面における気付きの交流を促す手立ての工夫を通して—

(2) テーマ設定の趣旨

「気付き」とは

対象に対する一人一人の認識であり、児童の主体的な活動によって生まれるものであり、次の自発的な活動を誘発するものとなるもの。

※「小学校学習指導要領解説生活編」平成 20 年 8 月 p4 より

《学習指導要領において求められていること》

生活科では、新設当初から「気付き」を大切にしてきましたが、平成20年の学習指導要領改訂に先立つ調査から「学習活動が体験だけで終わっていることや、活動や体験を通して得られた気付きを質的に高める指導が十分に行われていない⁽¹⁾」という課題が明らかになりました。同年8月に示された小学校学習指導要領解説生活編では、活動や体験を繰り返させたり、他者とともに活動させたりすることで、気付きの質を高め、次の活動や体験が充実するようにしていくことを課題解決に対する方向性として記されました。そして、自分自身や自分の生活について気付かせたり、気付きを基に考えさせたりするよう、見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動の充実を配慮すること、活動や体験したことを振り返り気付きを伝え合い交流する活動の充実を図ること等が、気付きの質を高めるために大切であると示されました。こうして、「気付きの質を高める」は、今回改訂のキーワードとしてクローズアップされたのです。

(1) 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)』

平成20年1月 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/news/20080117.pdf

《県内での取組と現状》

それらを受けて、児童の気付きの質を高めようと振り返りの時間を設定し、気付きの交流活動を取り入れる実践が県内でも展開されてきました。気付きの交流活動は、例えば「〇〇タイム」といった交流の時間を意図的・計画的に位置付けることが多く、その交流の時間において、児童の気付きの質の高まりが見られたのも事実です。しかし、気付きは、具体的な活動や体験の中でも、児童のつぶやきや会話、行動として表出されています。これらは、児童の中で必ずしも明確にならず、時間の経過とともに忘れられてしまい、振り返りの時間に全体で共有されず、残念に感じることもありました。より気付きの質を高めるためには、具体的な活動や体験の中で表出された児童の気付きを生かすことができるよう手立てを工夫する必要があると考えました。また、私自身これまで授業実践をする際に、具体的な活動や体験を行う場面で気付きの交流を促そうと試みてきましたが、児童と教師とのやりとりにとどまっており、児童同士の気付きの交流を促すまでには至っていませんでした。児童同士の気付きの交流を促す手立てについて明らかにしていなかったことが原因と感じています。

《本研究の考え方》

そこで、本研究では、具体的な活動や体験を行う場面において、互いに気付きの質を高め合う児童を育成するための手立ての工夫について探ることをねらいとしました。児童が友達と関わりながら見付けたり、比べたりすることができるような場を設定し、その中で表出された気付きを可視化することで、友達の気付きに触れさせ、気付きの交流を促したいと考えました。このことは、振り返り伝え合う場面で、児童が自分の気付きを忘れずに自信をもって発表することにもつながるのではないかと考え、研究テーマを設定しました。

(3) 研究の目標

具体的な活動や体験を行う場面において、児童が互いに気付きの質を高め合うことができるために、気付きの交流を促す手立ての工夫を探る。

(4) 研究方法と内容

ア 研究の方法

- (ア) 児童の実態調査、文献調査や先行研究等による理論研究
- (イ) 児童の実態、理論研究に基づいて、気付きの質を高め合うための手立てを取り入れて立てた単元計画による検証授業
- (ウ) 授業実践の分析を行い、気付きの質を高め合うためにとった手立ての有効性についての検証

イ 研究内容

- (ア) 児童の学習経験や生活経験、交流についての実態調査を行うとともに、文献や先行研究等によって気付きの質の高まりや気付きの交流についての理論研究を行う。
- (イ) 第2学年小単元「つくって、あそんで」において、気付きの質を高め合う手立てを取り入れた検証授業を行う。
- (ウ) 児童の発言、学習カード等を分析・考察し、友達と関わり合いながら活動ができたか、友達との交流により気付きの質を高めることができたかという視点から本研究の有効性を検証する。